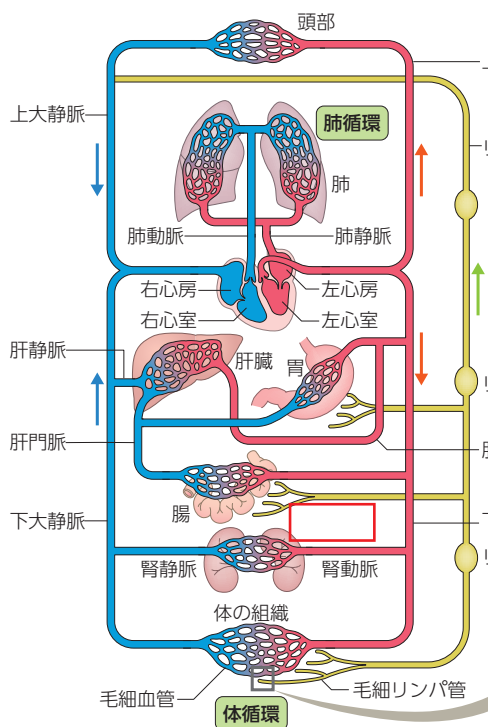
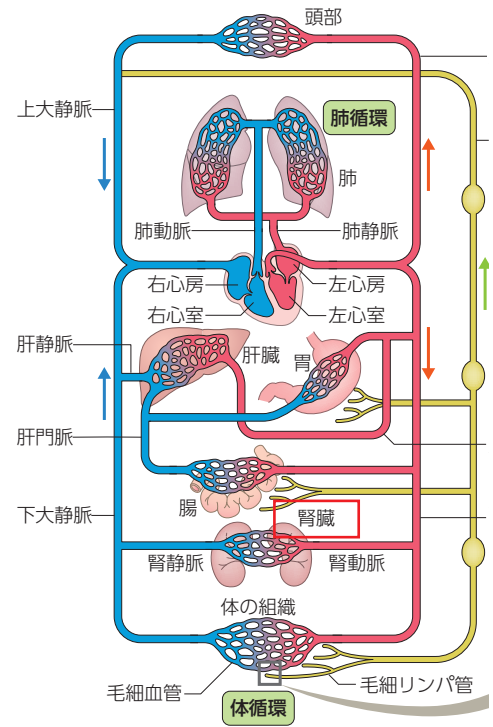


訂正箇所		原 文	訂 正 文
ページ	行		
82	14	<p>それぞれの遺伝子から <u>mRNA</u> が転写されている。 観察実験5でパフを観察してみよう。</p>	<p>それぞれの遺伝子が <u>mRNA</u> に転写されている。観 察実験5でパフを観察してみよう。</p>
84	図6	 <p>▲図6 ヒトの受精卵</p>	 <p>▲図6 ヒトの受精卵</p>

訂正箇所		原 文
ページ	行	
88	14	<p>②①の作業を同時に行う。1分以上経った任意の時間(<u>10秒の倍数でない時間</u>)で「止め」の合図を出す。</p> <p>③「止め」の合図とともに手の動きを止め、その時点のグー・チョキ・パーの数を数える。</p>

訂正箇所		訂 正 文
ページ	行	
		<p>②①の作業を同時に行う。1分以上経った任意の時間で「<u>止め</u>」の合図を出す。削除</p> <p>③「止め」の合図とともに手の動きを止め、その時点のグー・チョキ・パーの数を数える。</p>

訂正箇所		原 文	訂 正 文
ページ	行		
98	図3	 <p>▲図3 血液、組織液、リンパ液の流れの模式図</p>	 <p>▲図3 血液、組織液、リンパ液の流れの模式図</p>

訂正箇所		原	文
ページ	行		
108	13		<p>肝門脈は、胃や小腸の静脈からくる血管で、肝臓内で枝分かれして毛細血管となる。肝門脈を流れる血液には、小腸で吸収されたグルコースやアミノ酸など、さまざまな物質が含まれているが、酸素は小腸で消費されていて<u>ほとんど含んでいない。</u></p>

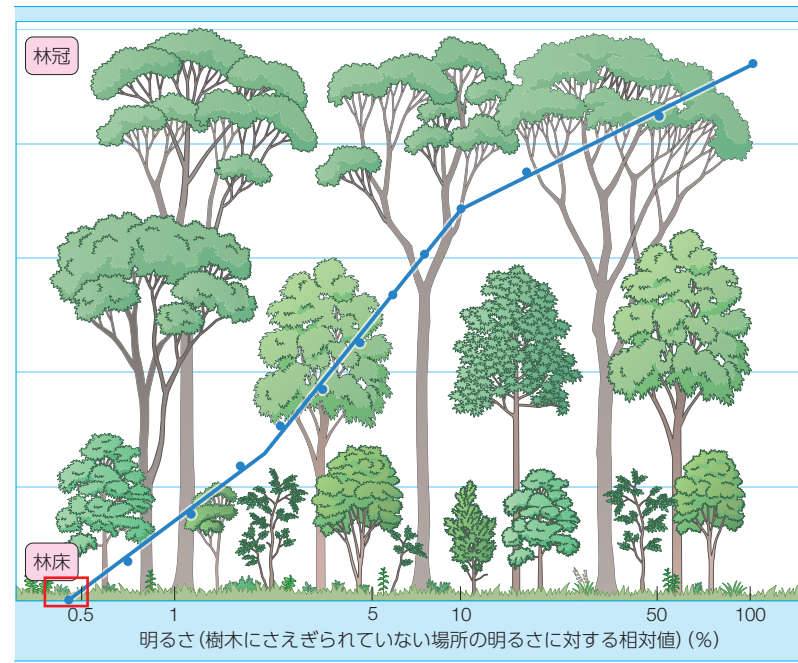
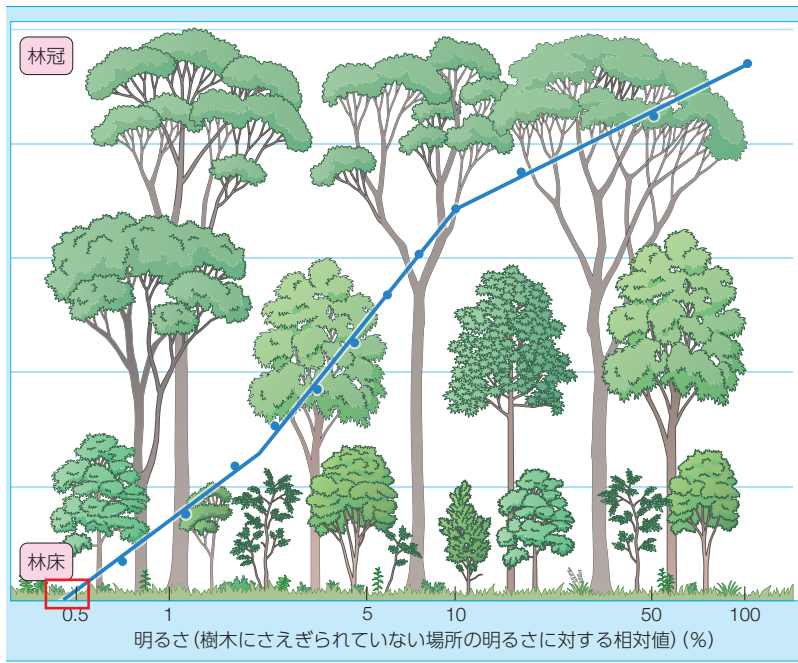
訂正箇所		訂 正 文
ページ	行	
		<p>肝臓には、^{かんもんみゃく}肝門脈と^{かんどうみゃく}肝動脈という異なる2つの血管を通して血液が流れ込^こんでいる。</p> <p>肝門脈は、胃や小腸の静脈からくる血管で、肝臓内で枝分かれして毛細血管となる。</p> <p>肝門脈を流れる血液には、小腸で吸収されたグルコースやアミノ酸など、さまざまな物質が含まれているが、酸素は小腸で消費され、<u>少なくなっている</u>。</p>

訂正箇所		原 文	訂 正 文																
ページ	行																		
120	表 1	<table border="1"> <thead> <tr> <th>おもなはたらき</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>脳下垂体のホルモン分泌の調節</td> </tr> <tr> <td>成長を促進, 血糖値を上げる。</td> </tr> <tr> <td>チロキシンの分泌を促進</td> </tr> <tr> <td>糖質コルチコイドの分泌を促進</td> </tr> <tr> <td>腎臓の集合管での水の再吸収を促進</td> </tr> <tr> <td>体内の化学反応を<u>高める(代謝促進)</u>。</td> </tr> <tr> <td>血液中のカルシウムイオン濃度を上げる。</td> </tr> </tbody> </table>	おもなはたらき	脳下垂体のホルモン分泌の調節	成長を促進, 血糖値を上げる。	チロキシンの分泌を促進	糖質コルチコイドの分泌を促進	腎臓の集合管での水の再吸収を促進	体内の化学反応を <u>高める(代謝促進)</u> 。	血液中のカルシウムイオン濃度を上げる。	<table border="1"> <thead> <tr> <th>おもなはたらき</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>脳下垂体のホルモン分泌の調節</td> </tr> <tr> <td>成長を促進, 血糖値を上げる。</td> </tr> <tr> <td>チロキシンの分泌を促進</td> </tr> <tr> <td>糖質コルチコイドの分泌を促進</td> </tr> <tr> <td>腎臓の集合管での水の再吸収を促進</td> </tr> <tr> <td>体内の化学反応を<u>促進する(代謝促進)</u>。</td> </tr> <tr> <td>血液中のカルシウムイオン濃度を上げる。</td> </tr> </tbody> </table>	おもなはたらき	脳下垂体のホルモン分泌の調節	成長を促進, 血糖値を上げる。	チロキシンの分泌を促進	糖質コルチコイドの分泌を促進	腎臓の集合管での水の再吸収を促進	体内の化学反応を <u>促進する(代謝促進)</u> 。	血液中のカルシウムイオン濃度を上げる。
おもなはたらき																			
脳下垂体のホルモン分泌の調節																			
成長を促進, 血糖値を上げる。																			
チロキシンの分泌を促進																			
糖質コルチコイドの分泌を促進																			
腎臓の集合管での水の再吸収を促進																			
体内の化学反応を <u>高める(代謝促進)</u> 。																			
血液中のカルシウムイオン濃度を上げる。																			
おもなはたらき																			
脳下垂体のホルモン分泌の調節																			
成長を促進, 血糖値を上げる。																			
チロキシンの分泌を促進																			
糖質コルチコイドの分泌を促進																			
腎臓の集合管での水の再吸収を促進																			
体内の化学反応を <u>促進する(代謝促進)</u> 。																			
血液中のカルシウムイオン濃度を上げる。																			

訂正箇所		原 文
ページ	行	
131	2	<p>液の流れを抑えて放熱を抑制するとともに、運動神経の活性を高め、興奮しやすくする。その結果、筋収縮(震え)によって発熱を促す反応をする。また、<u>甲状腺ホルモン</u>は、体の各組織の代謝を活性化する。交感神経の刺激は、肝臓や筋肉でのグリコーゲンの分解を引き起こして、代謝を活性化させ、体温の上昇を促す。</p>

訂正箇所		訂 正 文
ページ	行	
		<p>液の流れを抑えて放熱を抑制するとともに、運動神経の活性を高め、興奮しやすくする。その結果、筋収縮(震え)によって発熱を促す反応をする。また、<u>チロキシン(甲状腺ホルモン)</u>は、体の各組織の代謝を活性化する。交感神経の刺激は、肝臓や筋肉でのグリコーゲンの分解を引き起こして、代謝を活性化させ、体温の上昇を促す。</p>

173 図5



訂正箇所		原 文
ページ	行	
194	8-9	<p>●バイオームの垂直分布 気温は、標高が100 m増すごとに0.5～0.6℃低下する。そのため、水平分布と同様なバイオームの分布が、低地から高地にかけてもみられる。これを^{すいちよくぶんぶ}垂直分布といい、標高の低い方から高い方に向かって、^{ていちたい}低地帯(丘陵帯)、^{さんち}山地帯、^{あこうざんたい}亜高山帯、^{こうざんたい}高山帯に分けられる。垂直分布のそれぞれの境界の標高は、低緯度ほど高くなる。□</p> <p>本州中部の太平洋側では、標高約700 mまでは低地帯で照葉樹林が、標高約700～1,500 mは山地帯で夏緑樹林が、標高約1,500～2,500 mは亜高山帯でシラビソなどの針葉樹林が分布する。さらに標高が高くなると、<u>高木がなくなる森林限界</u>に達する。それよりも高所は高山帯で、<u>ハイマツなどの低木が生育する</u>。高山帯では、夏になるとコマクサやハクサンイチゲなどの高山植物の草原(お花畑)がみられる。</p>

訂正箇所		訂 正 文
ページ	行	
		<p>●バイオームの垂直分布 気温は、標高が100 m増すごとに0.5～0.6℃低下する。そのため、水平分布と同様なバイオームの分布が、低地から高地にかけてもみられる。これを垂直分布といひ、標高の低い方から高い方に向かって、低地帯(丘陵帯)、山地帯、亜高山帯、高山帯に分けられる。垂直分布のそれぞれの境界の標高は、低緯度ほど高くなる。□本州中部の太平洋側では、標高約700 mまでは低地帯で照葉樹林が、標高約700～1,500 mは山地帯で夏緑樹林が、標高約1,500～2,500 mは亜高山帯でシラビソなどの針葉樹林が分布する。さらに標高が高くなると、<u>高木の森林がみられなくなる森林限界</u>に達する。それよりも高所は高山帯で、<u>ハイマツが優占する低木林が分布する</u>。高山帯では、夏になるとコマクサやハクサンイチゲなどの高山植物の草原(お花畑)がみられる。</p>

訂正箇所		原 文
ページ	行	
23	15	<p>細胞液で満たされており、成熟した植物細胞で^{けんちよ}顕著にみられる。糖や無機塩類の貯蔵や無機塩類の^{のうど}濃度の調節などはたらきをしている。植物細胞の種類によっては、花の色や紅葉などのもとになる赤色、青色、紫色などの色素(<u>アントシアニン</u>)を含んでいることがある。植物細胞の^{さいぼうへき}細胞壁のおもな成分はセルロースで、細胞の形を決めるはたらきや、細胞どうしを結び付けるはたらきをしている。</p>

訂正箇所		訂 正 文
ページ	行	
		<p>細胞液で満たされており、成熟した植物細胞で顕著^{けんちよ}にみられる。糖や無機塩類の貯蔵^{→p.30}や無機塩類の濃度^{のうど}の調節などはたらきをしている。植物細胞の種類によっては、花の色や紅葉などのもとになる赤色、青色、紫色などの色素(アントシアンなど)を含んでいることがある。植物細胞の細胞壁^{さいぼうへき}のおもな成分はセルロースで、細胞の形を決めるはたらきや、細胞どうしを結び付けるはたらきをしている。</p>

訂正箇所		原 文	訂 正 文
ページ	行		
182	結果	▲ <u>コケ植物 (スギゴケ)</u>	▲ <u>コケ植物</u>
246	左2段 14行	<u>スギゴケ……………182</u>	削除